

2-2 調査成績（施設野菜）

施設野菜の部 No.1

項 目：品種特性調査

調査名：種子繁殖型いちご品種「よつぼし」の品種特性調査（継続：令和3年度～令和5年度）

1 目的 種子繁殖型いちご品種「よつぼし」について、収量・品質等の品種特性を調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス4号（132 m²：約40坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
- 2) は種月日 令和4年5月14日（406穴セルトレイ）
- 3) 移植月日 令和4年6月23日（10.5cmポット）
※406穴セルトレイ苗を購入、納品後直ちにポットに移植
- 4) 夜冷処理期間 <1>【期間及び日数】令和4年8月12日～9月8日、28日間
【短日処理】8時間日長（16時30分～翌8時30分遮光）
【夜冷処理】13～15℃（16時30分～翌8時30分）
- 5) 定植年月日 <1><2><4>令和4年9月9日、<3>令和4年9月27日
- 6) 育苗日数 <1><2><4>118日、<3>136日
- 7) 電照長日処理 <2>定植後2週間24時間長日処理
- 8) 栽植距離 うね幅110cm、ベッド幅70cm、株間25cm、2条植え
- 9) 定植株数 640株/棟
- 10) 施肥量 N-P-K=1.34-0.54-8.68kg/a
【基肥】LPコートS100（41-0-0）：1.5kg/a
硫酸加里（0-0-50）：15.2kg/a
【追肥】大塚養液土耕6号（13.5-10-20）：5.4kg/a
アヅミン（Mg:3%）：5kg/a、ハイフミンハイブリットG：30kg/a、
あったかマルチ
- 11) 使用資材
- 12) 収穫期間 令和4年11月28日～令和5年6月23日
- 13) 保温 内カーテン：令和4年11月14日～令和5年4月17日
- 14) 加温 温風暖房機（5℃設定）：
令和4年11月14日～令和5年4月17日
- 15) 薬剤散布 24回（成分回数）

(3) 調査区の構成

- 1) 調査区 3区（1区10株、1区制）

	移植月日	育苗処理	定植月日	花芽分化
<1>夜冷短日処理区	令和4年6月23日	夜冷短日処理	令和4年9月9日	有
<2>電照長日処理区	令和4年6月23日	ハウス育苗	令和4年9月9日	有
<3>9月下旬定植区	令和4年6月23日	ハウス育苗	令和4年9月27日	有
<4>種子無処理区（対照）	令和4年6月23日	ハウス育苗	令和4年9月9日	有

- 2) 供試品種 よつぼし（三重県・香川県・千葉県・農研機構）

- (4) 調査項目 生育、収量、品質

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果

- 1) 生育

収穫開始は、「夜冷短日処理区」で早く、11月下旬から始まった。次いで、「電照長日処理区」が12月下旬から収穫開始となり、「9月下旬定植区」と対照区の「種子無処理区」では、1月中旬からの収穫開始となった。

病害虫については、5月頃からハダニ類の発生が見られた。

2) 収量

「9月下旬定植区」では、1株収量は804.8kg、10a換算収量は3,902kgであり、最も多かった。

月別収量で比較すると収穫開始から2月までは「夜冷短日処理区」と「電照長日処理区」で多かったが、それ以降は「9月下旬定植区」で多かった。

3) 品質

平均果重は「9月下旬定植区」が16.9gで最も大きく、「電照長日処理区」が16.8gで同等となった。次いで「種子無処理区」が16.0g、「夜冷短日処理区」が15.9gと同等となった。秀品率は「9月下旬定植区」が95.4%で最も高く、10a換算秀品収量でも3,722kgと最も優れていた。

4) 調査3箇年の結果

「よつぼし」は、夜冷短日処理、電照長日処理をすることにより、年内から2月頃までの初期収量を増加・安定させる効果があると考えられた。しかしながら、収穫期間を通した全収量に占める初期収量の割合については、さらなる向上を図るために、他の生産技術を含めた検討が必要であると考えられた。

(2) 次年度以降の計画 終了

表1 生育調査（収穫開始日、10株当たり）

調査区名	草丈 (cm)	展開葉 (枚)	葉柄長 (cm)	葉長 (cm)	葉幅長 (cm)	芽数 (芽)	クラウン 径 (mm)
夜冷短日処理区	19.9	-	11.6	10.1	8.5	-	21.7
電照長日処理区	34.0	-	21.9	12.8	10.3	-	20.2
9月下旬定植区	23.5	-	15.0	10.8	9.0	-	19.0
種子無処理区(対照)	21.2	-	13.5	10.8	9.1	-	25.4

表2 収量調査（10株当たり）

(単位：g、個)

調査区名	3L (35g以上)		2L (25～35g未満)		L (15～25g未満)		M (11g～15g未満)		S (7～11g未満)	
	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量
夜冷短日処理区	8	303	39	1,111	126	2,397	97	1,188	62	539
電照長日処理区	10	388	68	1,878	176	3,342	96	1,215	80	690
9月下旬定植区	10	405	65	1,834	201	3,698	110	1,389	69	597
種子無処理区(対照)	14	545	33	928	138	2,568	97	1,230	66	599

表2つづき

調査区名	小果・奇形果		合計		等級割合（%：重量ベース）					
	個数	収量	個数	収量	3L	2L	L	M	S	小・奇形
夜冷短日処理区	25	152	357	5,690	2.2	10.9	35.3	27.2	17.4	7.0
電照長日処理区	30	199	460	7,712	2.2	14.8	38.3	20.9	17.4	6.5
9月下旬定植区	22	125	477	8,048	2.1	13.6	42.1	23.1	14.5	4.6
種子無処理区(対照)	30	182	378	6,052	3.7	8.7	36.5	25.7	17.5	7.9

表2つづき

調査区名	平均 果重 (g)	1株 収量 (g)	1棟(132m ²) 換算収量 (kg)	10a換算 収量 (kg)	秀品率 (%)	10a換算秀品 収量 (kg)
夜冷短日処理区	15.9	569.0	364.2	2,759	93.0	2,566
電照長日処理区	16.8	771.2	493.6	3,739	93.5	3,495
9月下旬定植区	16.9	804.8	515.1	3,902	95.4	3,722
種子無処理区(対照)	16.0	605.2	387.3	2,934	92.1	2,701

表3 品質調査

測定日	よつぼし		
	糖度 (Brix%)	酸度 (%)	硬度 (kg)
2月20日	10.4	0.54	0.93
6月7日	11.4	0.88	0.86

※各測定日に収穫した5果当たりの平均値。

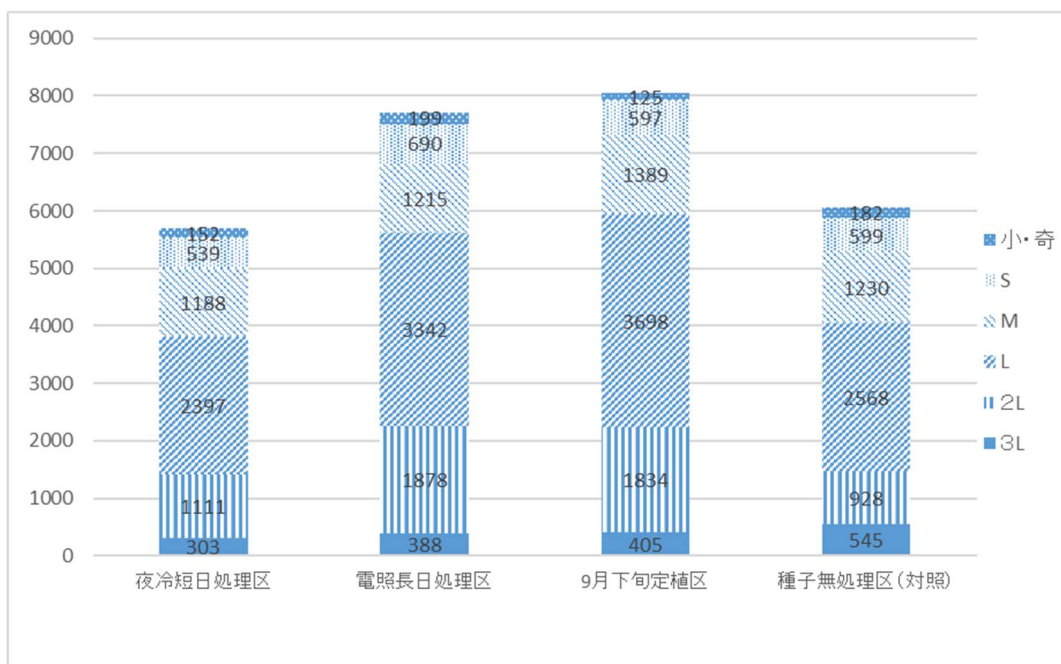


図1 等級別収量(g) (10 株当たり)

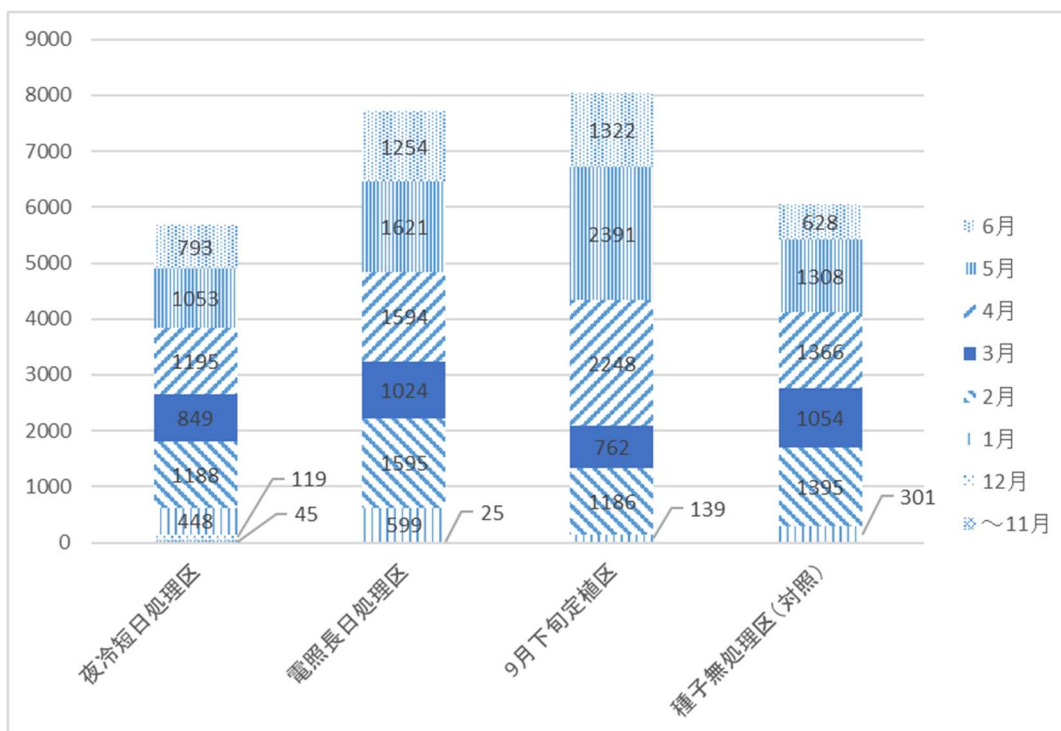


図2 月別収量(g) (10 株当たり)

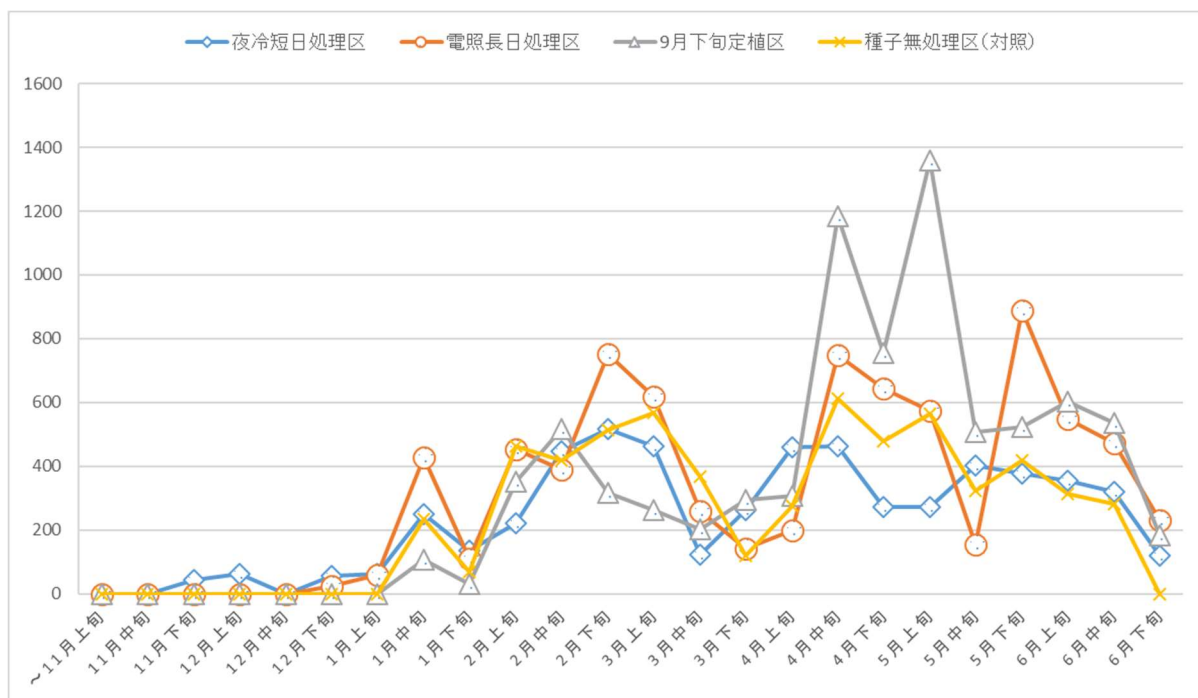


図3 旬別収量(g) (10 株当たり)

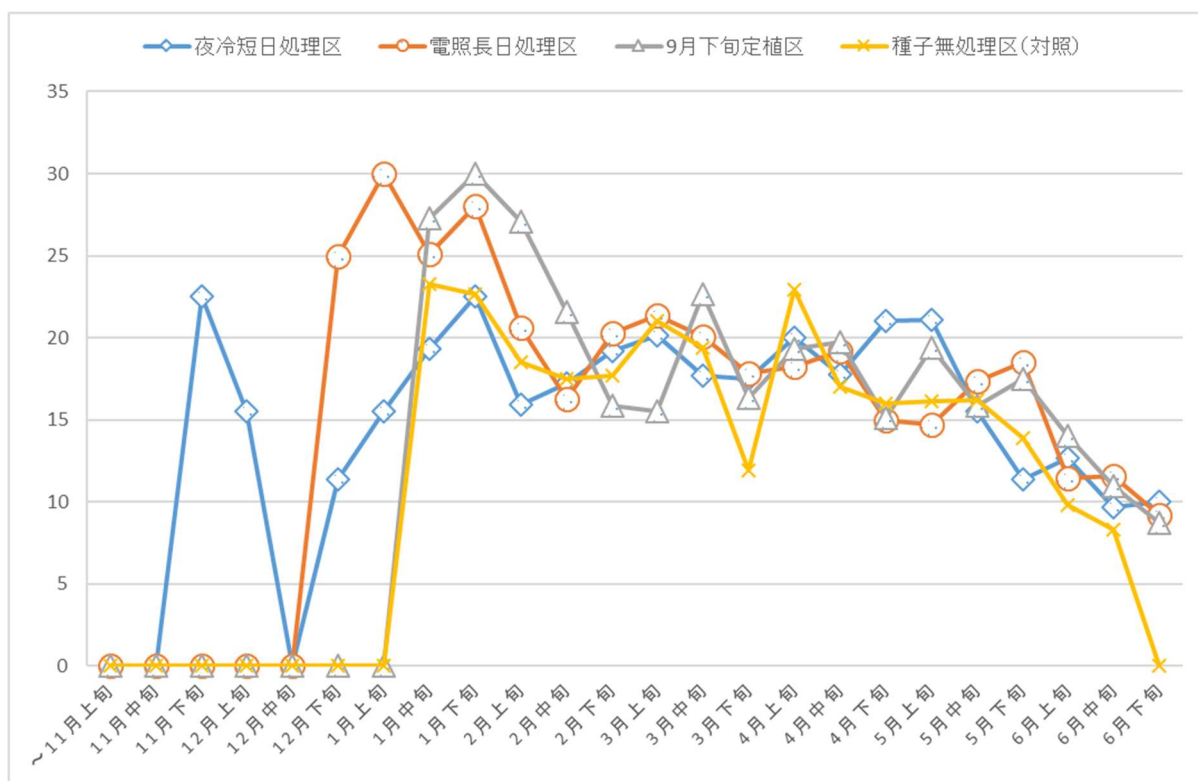


図4 旬別平均果重(g) (10 株当たり)

表4 昨年度までの結果

令和 4 年度

収量調査（10株当たり）											（単位：g、個）	
調査区名	3L （35g以上）		2L （25～35g未満）		L （15～25g未満）		M （11g～15g未満）		S （7～11g未満）			
	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量		
夜冷短日処理区	6	217	24	695	120	2,224	76	973	68	608		
電照長日処理区	2	77	26	669	104	1,929	76	957	80	735		
9月下旬定植区	0	0	10	263	51	930	66	816	109	954		

表2 つづき

調査区名	小果・奇形果		合計		等級割合（%：個数ベース）							
	個数	収量	個数	収量	3L	2L	L	M	S	小・奇形		
夜冷短日処理区	21	117	315	4,834	1.9	7.6	38.1	24.1	21.6	6.7		
電照長日処理区	47	238	335	4,605	0.6	7.8	31.0	22.7	23.9	14.0		
9月下旬定植区	60	311	296	3,274	0.0	3.4	17.2	22.3	36.8	20.3		

表2 つづき

調査区名	平均 果重	1株 収量 （g）	1棟（132㎡） 換算収量 （kg）	10a換算 収量 （kg）	秀品率 （%）	10a換算秀品 収量 （kg）
夜冷短日処理区	15.3	483.4	309.4	2,344	93.3	2,188
電照長日処理区	13.7	460.5	294.7	2,233	86.0	1,919
9月下旬定植区	11.1	327.4	209.5	1,587	79.7	1,266

※算出方法は表2に準じる

令和 3 年度

収量調査（10 株当たり）

品 種 名	3L （35g以上）		2L （25～35g未満）		L （15～25g未満）		M （11～15g未満）		S （7～11g未満）		小果・奇形果	
	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量
夜冷短日処理区	8	299	32	936	125	2,336	122	1,554	110	997	61	472
電照長日処理区	13	525	44	1,305	136	2,545	107	1,402	58	541	27	219
9月下旬定植区	19	756	49	1,450	127	2,407	102	1,330	48	450	18	152

表2つづき

品 種 名	合計		平均 果重	1 株 収量	秀品率 （%）	1棟（132㎡） 換算収量（kg）	10a換算収量 （kg）	10a換算秀品 収量（kg）
	果数	収量						
夜冷短日処理区	458	6,594	14.4	659.4	86.7	422.0	3,197	2,771
電照長日処理区	385	6,537	17.0	653.7	93.0	418.4	3,169	2,947
9月下旬定植区	363	6,545	18.0	654.5	95.0	418.9	3,173	3,016

表2つづき

品 種 名	等級割合(％：重量ベース)					
	3L	2L	L	M	S	小・奇
夜冷短日処理区	4.5	14.2	35.4	23.6	15.1	7.2
電照長日処理区	8.0	20.0	38.9	21.4	8.3	3.4
9月下旬定植区	11.6	22.2	36.8	20.3	6.9	2.3

※平均果重=合計収量/合計個数。1株収量=合計収量/10株。秀品率=(3L～S合計)/合計果数。

1棟換算収量=1株収量×定植株数(640株)。10a換算収量=1棟換算収量/132㎡×1000㎡。

10a換算秀品収量=10a換算収量×秀品率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

※算出方法は表2に準じる

施設野菜の部 No.2

項 目：品種特性調査

調査名：種子繁殖型いちご品種の品種特性調査（新規：令和4年度～令和5年度）

- 1 目的 新種子繁殖型いちご品種「すず」、「はるひ」について、収量・品質等の品種特性を調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調 査 場 所 パイプハウス4号（132 m²：約40坪）
- (2) 耕 種 概 要
- 1) 栽 培 方 法 養液土耕栽培
 - 2) は 種 月 日 令和4年5月14日（406穴セルトレイ）
 - 3) 移 植 月 日 令和4年6月23日（10.5cmポット）
※406穴セルトレイ苗を購入、納品後直ちにポットに移植
 - 7) 育 苗 日 数 136日
 - 8) 定 植 年 月 日 令和4年9月27日
 - 9) 栽 植 距 離 うね幅110cm、ベッド幅70cm、株間25cm、2条植え
 - 10) 定 植 株 数 640株/棟
 - 11) 施 肥 量 N-P-K=1.34-0.54-8.68kg/a
【基肥】LPコートS100（41-0-0）：1.5kg/a
硫酸加里（0-0-50）：15.2kg/a
【追肥】大塚養液土耕6号（13.5-10-20）：5.4kg/a
アヅミン（Mg:3%）：5kg/a、ハイフミンハイブリットG：30kg/a、
あったかマルチ
 - 12) 使 用 資 材
 - 13) 収 穫 期 間 令和4年12月26日～令和5年6月23日
 - 14) 保 温 内カーテン：令和4年11月14日～令和5年4月17日
 - 15) 加 温 温風暖房機（5℃設定）：
令和4年11月14日～令和5年4月17日
 - 16) 薬 剤 散 布 24回（成分回数）
- (3) 調 査 区 の 構 成
- 1) 調 査 区 3区（1区10株、1区制）
 - 2) 供 試 品 種 <1>すず （株）ミヨシ・三好アグリテック（株）・三重県）
<2>はるひ （株）ミヨシ・三好アグリテック（株）
<3>よつぼし（三重県・香川県・千葉県・農研機構）
- (4) 調 査 項 目 生育、収量、品質

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育
収穫開始は、「すず」で最も早く、12月26日から始まった。その後、「よつぼし」「はるひ」が遅れて1月16日から同時に収穫開始となった。
病害虫については、ほぼ発生は見られなかった。
 - 2) 収量
「よつぼし」では、1株収量が804.8g、10a換算収量は3,902kgであり、最も多かった。最も収量が少なかった品種は「はるひ」であり、1株収量が462.5g、10a換算収量は2,242kgであった。
月別収量の比較においても、10a換算収量が最も多かった「よつぼし」は、3月までの収量が最も多く、同様に10a換算収量が最も低かった「はるひ」では3月までの収量が最も少なかった。
 - 3) 品質
平均果重はいずれの品種も16g台であり、大きな違いは見られなかった。秀品率は「よつぼし」が95.4%で最も優れており、10a換算秀品収量でも3,722kgと最も優れていた。

4) 調査2箇年の結果

「すず」は10a換算収量において「よつぼし」と同程度の収量が確保されることが考えられる。しかしながら、「はるひ」においては、10a換算収量だけでなく特に3月までの収量が少ないため、安定した収量を確保するためには、別途栽培管理条件の検討が必要と考えられる。

(2) 次年度以降の計画
終了

表1 生育調査（収穫開始日、10株当たり）

調査区名	草丈 (cm)	展開葉 (枚)	葉柄長 (cm)	葉長 (cm)	葉幅長 (cm)	芽数 (芽)	クラウン 径 (mm)
すず	30.4	-	21.9	12.8	10.3	-	21.2
はるひ	25.2	-	18.0	15.7	12.1	-	20.3
よつぼし	23.5	-	15.0	10.8	9.0	-	19.0

表2 収量調査（10株当たり）（単位：g、個）

調査区名	3L (35g以上)		2L (25～35g未満)		L (15～25g未満)		M (11g～15g未満)		S (7～11g未満)	
	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量
すず	23	854	53	1,498	154	2,850	105	1,329	96	859
はるひ	11	414	29	812	109	2,040	60	747	52	448
よつぼし	10	405	65	1,834	201	3,698	110	1,389	69	597

表2つづき

調査区名	小果・奇形果		合計		等級割合（%：重量ベース）					
	個数	収量	個数	収量	3L	2L	L	M	S	小・奇形
すず	34	272	465	7,662	4.9	11.4	33.1	22.6	20.6	7.3
はるひ	23	164	284	4,625	3.9	10.2	38.4	21.1	18.3	8.1
よつぼし	22	125	477	8,048	2.1	13.6	42.1	23.1	14.5	4.6

表2つづき

調査区名	平均 果重 (g)	1株 収量 (g)	1棟(132㎡) 換算収量 (kg)	10a換算 収量 (kg)	秀品率 (%)	10a換算秀品 収量 (kg)
すず	16.5	766.2	490.4	3,715	92.7	3,443
はるひ	16.3	462.5	296.0	2,242	91.9	2,061
よつぼし	16.9	804.8	515.1	3,902	95.4	3,722

表3 品質調査

測定日	すず			はるひ			よつぼし		
	糖度 (Brix%)	酸度(%)	硬度(kg)	糖度 (Brix%)	酸度(%)	硬度(kg)	糖度 (Brix%)	酸度(%)	硬度(kg)
2月20日	14.9	0.67	0.98	12.5	0.69	0.97	10.4	0.54	0.93
6月7日	10.6	0.93	0.86	10.6	1.12	0.93	11.4	0.88	0.86

※各測定日に収穫した5果当たりの平均値。

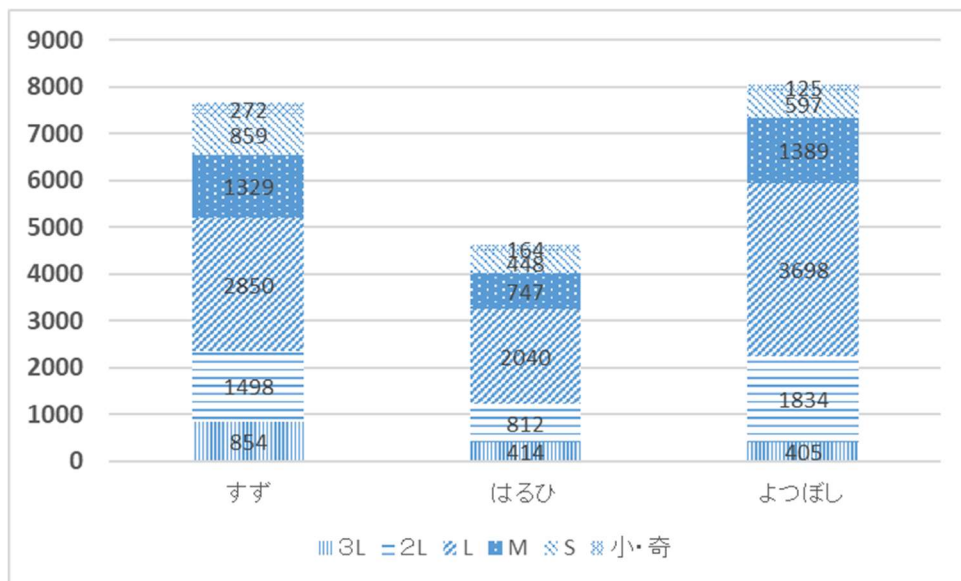


図1 等級別収量(g) (10 株当たり)

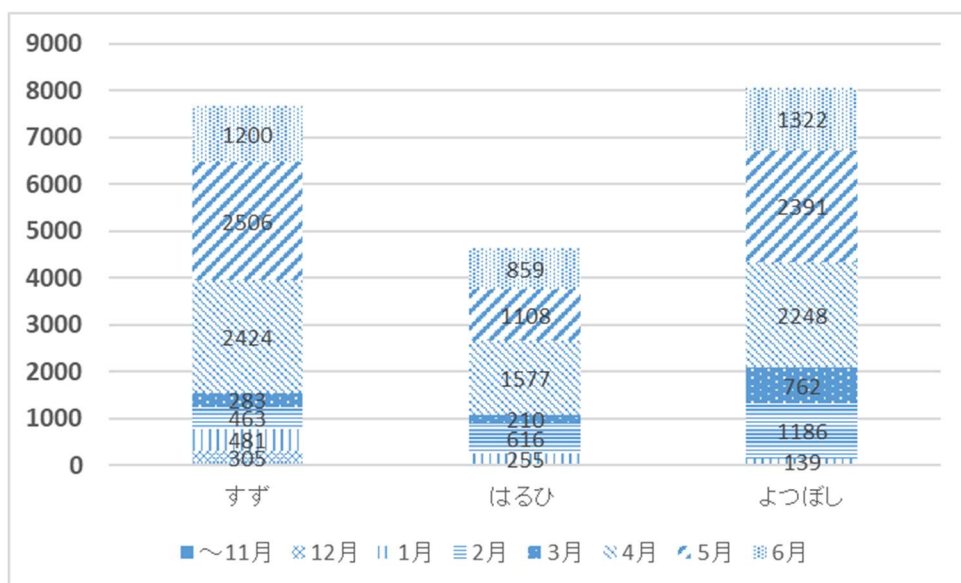


図2 月別収量 (g) (10 株当たり)

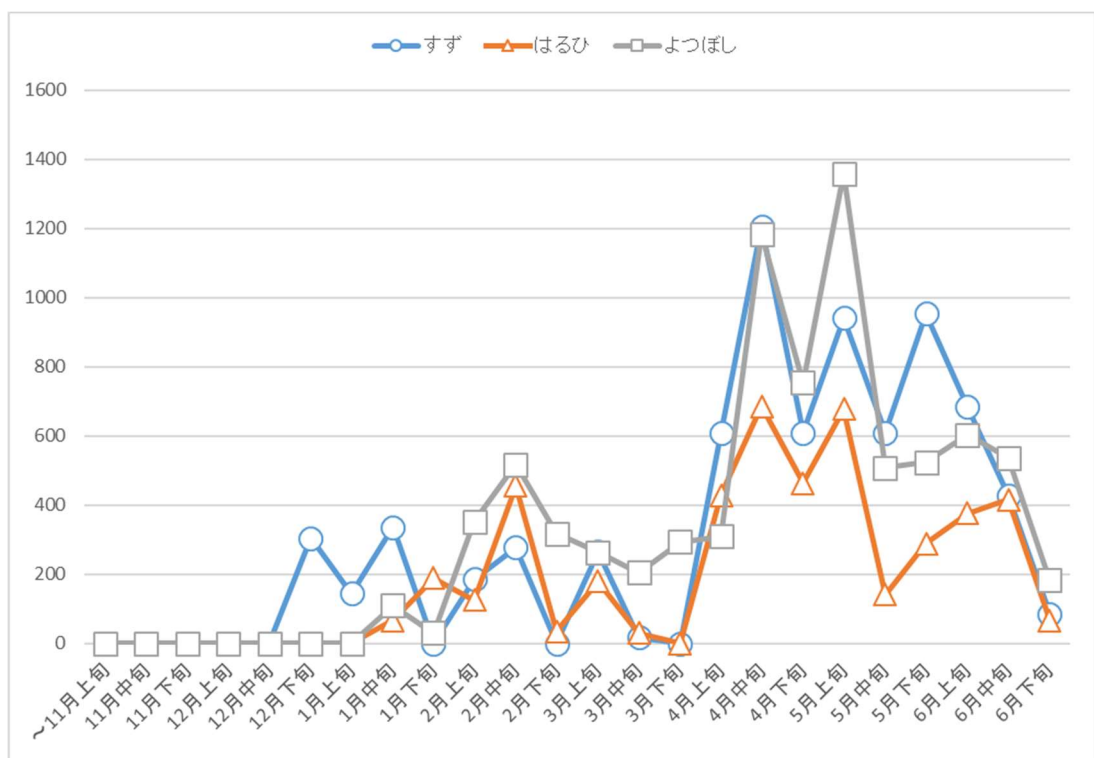


図3 旬別収量 (g) (10 株当たり)

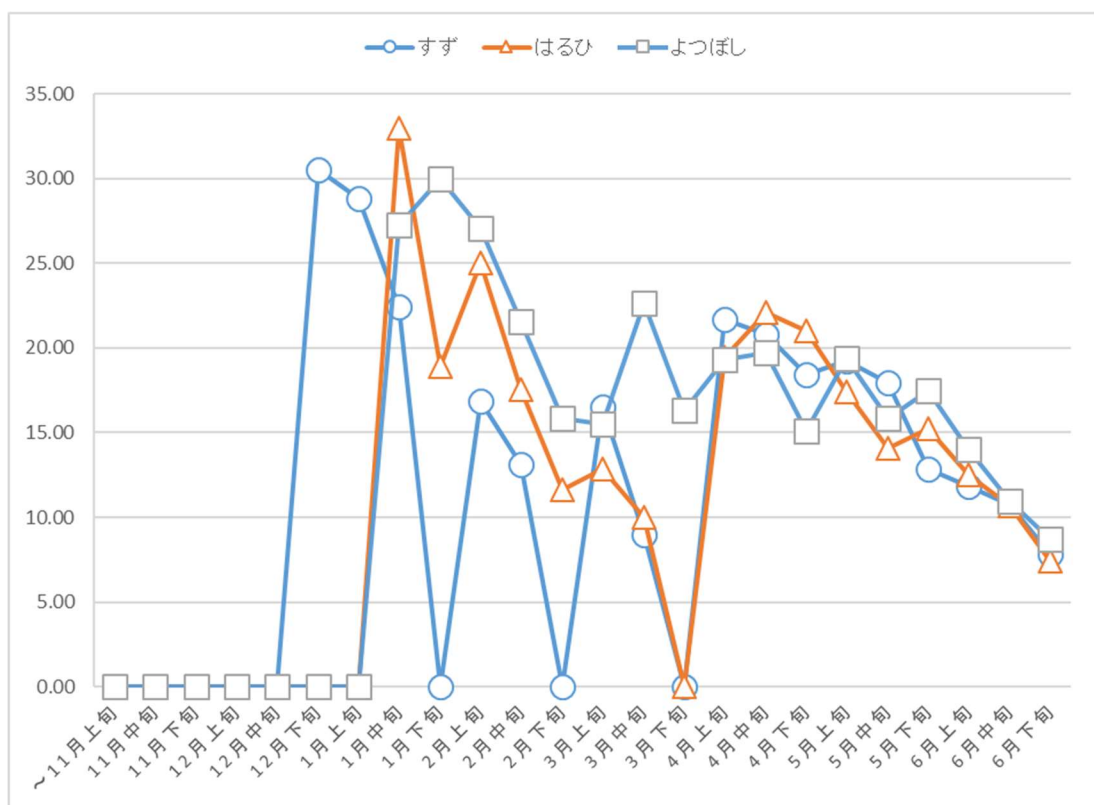


図4 旬別平均果重 (g) (10 株当たり)

表4 昨年度までの結果
令和 4 年度

表 2 収量調査（10株当たり）										(単位：g、個)	
調査区名	3L		2L		L		M		S		
	(35g以上)		(25～35g未満)		(15～25g未満)		(11g～15g未満)		(7～11g未満)		
	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	
すず	2	72	17	479	62	1,130	58	748	77	693	
はるひ	3	116	26	775	53	961	21	253	30	270	
よつぼし	0	0	10	263	51	930	66	816	109	954	

表 2 つづき										
調査区名	小果・奇形果		合計		等級割合（%:重量ベース）					
	個数	収量	個数	収量	3L	2L	L	M	S	小・奇形
すず	57	299	273	3,421	0.7	6.2	22.7	21.2	28.2	20.9
はるひ	36	189	169	2,564	1.8	15.4	31.4	12.4	17.8	21.3
よつぼし	60	311	296	3,274	0.0	3.4	17.2	22.3	36.8	20.3

調査区名	平均 果重	1株 収量 (g)	1棟(132㎡) 換算収量 (kg)	10a換算 収量 (kg)	秀品率 (%)	10a換算秀品 収量 (kg)
すず	12.5	342.1	218.9	1,659	79.1	1,312
はるひ	15.2	256.4	164.1	1,243	78.7	978
よつぼし	11.1	327.4	209.5	1,587	79.7	1,266

※算出方法は表 2 に準じる

施設野菜の部 No.3

項 目：品種比較調査

調査名：トマトの促成栽培における品種比較調査（継続：令和4年度～令和6年度）

- 1 目的 トマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調 査 場 所 ガラス温室5号（165 m²：約50坪）
- (2) 耕 種 概 要
- | | |
|----------|---|
| 1) 栽培方法 | 養液土耕栽培 |
| 2) は種月日 | 令和4年12月28日（144穴トレイ） |
| 3) 移植月日 | 令和5年2月2日（12cmポット） |
| 4) 定植月日 | 令和5年2月27日 |
| 5) 育苗日数 | 61日 |
| 6) 栽植距離 | ベッド幅100cm、株間40cm、2条植え |
| 7) 定植株数 | 320株/棟 |
| 8) 施肥量 | N-P-K=1.44-1.30-2.52kg/a
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：3.6kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：7.2kg/a |
| 9) 使用資材 | ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（6月29日～7月31日）。 |
| 10) 収穫期間 | 令和5年5月12日～7月31日 |
| 11) 保温 | 内カーテン：令和5年2月27日～令和5年6月4日 |
| 12) 加温 | 温風暖房機（12℃設定）：令和5年2月27日～令和5年5月12日 |
| 13) 薬剤散布 | 18回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。 |
| 14) 摘心 | 令和5年5月31日（8段程度） |
- (3) 調査区の構成
- | | |
|---------|---|
| 1) 調査区 | 4区（1区10株、1区制） |
| 2) 供試品種 | <1> みそら64（みかど協和株）
<2> CF桃太郎はるか（タキイ種苗株）
<3> 桃太郎ネクスト（タキイ種苗株）
<4> 麗月（㈱サカタのタネ） |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育
定植時の生育調査では、草丈が「桃太郎ネクスト」で高くなり、「麗月」で最も低くなった。また、収穫時の調査では、草丈が「桃太郎はるか」で高くなり、「みそら64」で最も低くなった。
病害虫については確認されなかった。
- 2) 収量
全ての品種で1段目から3段目の着果率が低かったため、生育前半の収量は低い結果となった。
10a換算収量は「麗月」で最も多く、次いで「みそら64」、「桃太郎はるか」、「桃太郎ネクスト」の順となった。また、月別収量で最も多かったのは、5月は「みそら64」、6、7月は「麗月」であった。
- 3) 品質
全ての品種で1果100g以下の下物が多く発生するなど小玉傾向となった。
平均1果重は「みそら64」で最も大きく、「桃太郎はるか」で最も小さかった。上物率は「麗月」で高く、「桃太郎ネクスト」で低かった。10a換算上物収量は「麗月」が

最も高かった。
糖度は「みそら 64」で高い結果となった。

(2) 次年度以降の計画
継続

表 1 生育調査 (10 株平均)

品種名		草丈 (cm)	葉数 (枚)	第 1 果房 の節位	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
みそら 64	定植時	38.2	9.3	7.6	－	28.2	6.0
	収穫開始時	158.5	28.8	－	5.5	42.3	11.0
CF 桃太郎はるか	定植時	34.9	8.8	8.3	－	26.5	5.9
	収穫開始時	194.6	30.1	－	6.5	41.5	10.9
桃太郎ネクスト	定植時	43.0	9.0	7.6	－	28.1	5.8
	収穫開始時	179.0	26.6	－	6.7	42.7	10.2
麗月	定植時	17.3	5.6	－	－	18.4	4.9
	収穫開始時	169.3	25.5	－	6.6	45.9	12.3

表 2 収量調査 (10 株当たり)

品種名	上物		下物		合計	
	果数	収量 (g)	果数	収量 (g)	果数	収量 (g)
みそら 64	150	30,783	42	6,888	192	37,671
CF 桃太郎はるか	154	29,866	42	3,542	196	33,408
桃太郎ネクスト	137	24,621	41	5,831	178	30,452
麗月	200	39,203	29	2,917	229	42,120

表 2 つづき

品種名	1 株換算 収量 (g)	平均 1 果重 (g)	上物率 (%)	1 棟換算 収量 (t)	10a 換算 収量 (t)	10a 換算 上物収量 (t)
みそら 64	3,767	196.2	81.7	1.2	7.3	6.0
CF 桃太郎はるか	3,341	170.4	89.4	1.1	6.5	5.8
桃太郎ネクスト	3,045	171.1	80.9	1.0	5.9	4.8
麗月	4,212	183.9	93.1	1.3	8.2	7.6

※上物：A+B品、下物：C+D+外品の合計。

※1株換算収量＝合計収量/10株。平均1果重＝合計収量/合計果数。上物率＝上物収量/合計収量×100。

1棟（165㎡）換算収量＝1株換算収量×定植株数（320株）。10a換算収量＝1棟換算収量/165㎡×1,000㎡。

10a換算上物数量＝10a換算数量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 3 糖度調査 (Brix%)

品種名	6月12日	6月28日	7月24日
みそら 64	7.1	6.1	5.6
CF 桃太郎はるか	5.8	5.8	5.5
桃太郎ネクスト	6.2	5.9	5.3
麗月	5.9	5.6	5.7

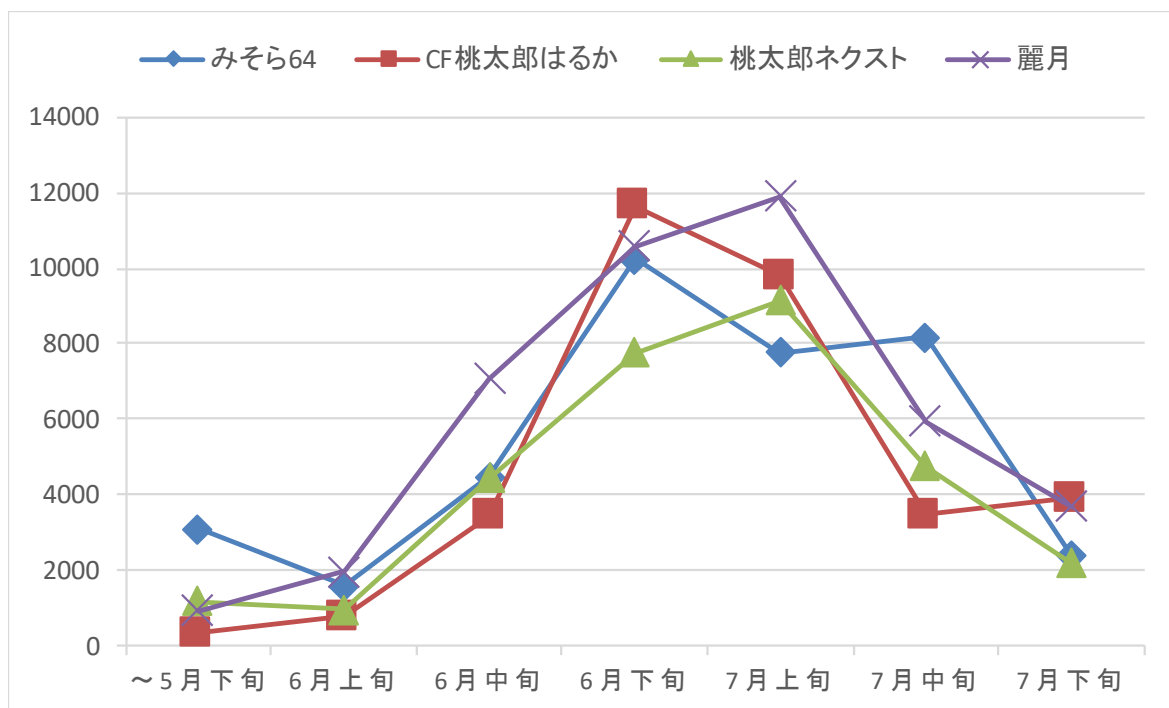


図1 旬別収量 (g) (10株当たり)

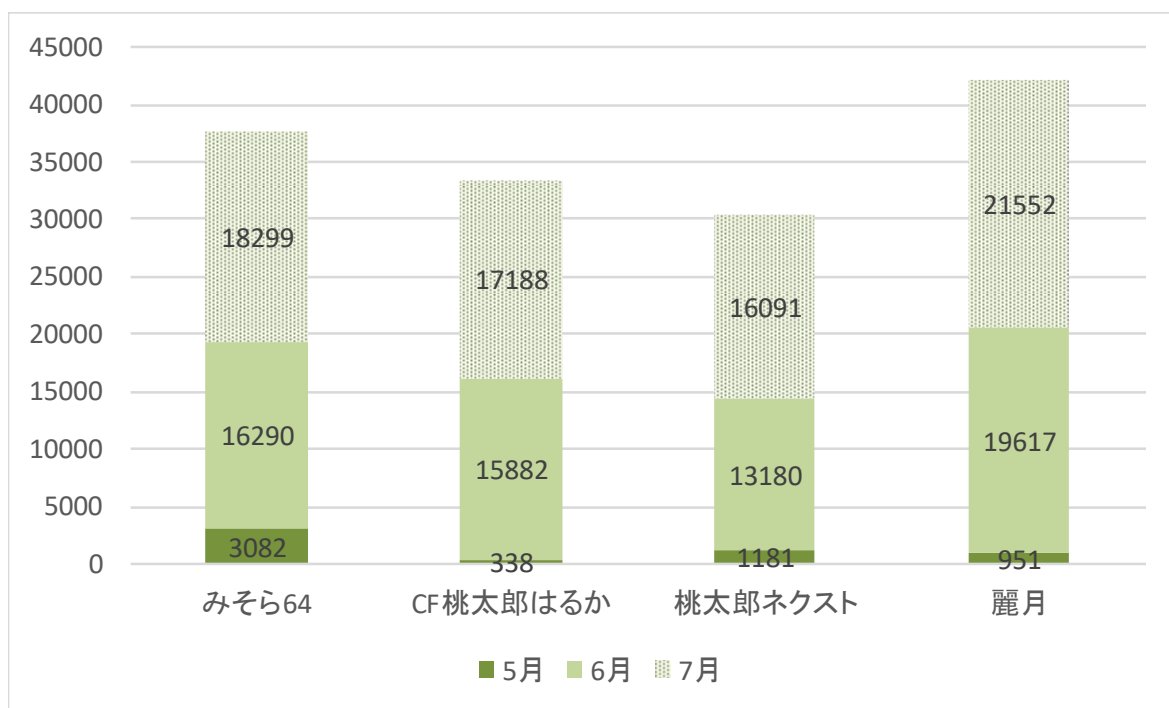


図2 月別収量 (g) (10株当たり)

表4 年次別結果

品種名	平均1果重 (g)		上物率 (%)		10a換算収量 (t)		10a換算上物収量 (t)	
	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度
みそら64	135.8	196.2	68.1	81.7	2.9	7.3	2.0	6.0
CF桃太郎はるか	208.7	170.4	78.4	89.4	6.8	6.5	5.3	5.8
桃太郎ネクスト	145.9	171.1	80.6	80.9	2.7	5.9	2.2	4.8
麗月	168.3	183.9	91.3	93.1	7.7	8.2	7.0	7.6

施設野菜の部 No.4

項 目：品種比較調査

調査名：トマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続：令和4年度～令和6年度）

- 1 目的 トマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調 査 場 所 ガラス温室7号（165 m²：約50坪）
- (2) 耕 種 概 要
- 1) 栽 培 方 法 養液土耕栽培
 - 2) は 種 月 日 令和5年2月28日（144穴トレイ）
 - 3) 移 植 月 日 令和5年3月20日（12cmポット）
 - 4) 定 植 月 日 令和5年4月13日
 - 5) 育 苗 日 数 44日
 - 6) 栽 植 距 離 ベッド幅100cm、株間40cm、2条植え
 - 7) 定 植 株 数 320株/棟
 - 8) 施 肥 量 N-P-K=2.17-1.24-3.88kg/a
【肥料】大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：15.5kg/a
ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（6月29日～10月2日）。
 - 9) 使 用 資 材
 - 10) 収 穫 期 間 令和5年6月15日～11月27日
 - 11) 保 温 内カーテン：定植日～令和5年6月4日、10月2日～11月27日
 - 12) 加 温 温風暖房機（12℃設定）：令和5年4月13日～令和5年5月12日
 - 13) 薬 剤 散 布 44回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。
 - 14) 摘 心 令和5年9月29日（20段程度）
- (3) 調査区の構成
- 1) 調 査 区 5区（1区10株、1区制）
 - 2) 供 試 品 種<1> みそら64 (みかど協和株)
<2> ひなた (みかど協和株)
<3> 桃太郎ネクスト (タキイ種苗株)
<4> りんか409 (株サカタのタネ)
<5> 麗月 (株サカタのタネ)
- (4) 調 査 項 目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育
定植時の生育調査では、草丈が「桃太郎ネクスト」で最も高くなり、「みそら64」で最も低くなった。
収穫開始時の生育調査では、草丈が「麗月」で最も高くなり、「ひなた」で最も低くなった。
病害虫では、10月以降、一部でタバコガ類による果実の食害が確認された。
 - 2) 収量
7月下旬以降が高温で推移したことで、10段目から12段目の花数が減少し、着花不良が多く、多くの品種で確認され、9月以降の収量が減少した。
10a 換算収量は「麗月」で最も多くなった。また、月別収量で最も多かったのは、6月は「ひなた」、7月以降は「麗月」であった。
 - 3) 品質
全ての品種で1果100g以下の下物が多く発生するなど小玉傾向となった。
また、「みそら64」、「桃太郎ネクスト」、「りんか409」では裂果の発生が多く、「麗月」では尻腐れ果の発生が他品種に比べ多い傾向となった。

平均 1 果重は「桃太郎ネクスト」で最も大きく、「みそら 64」で最も小さかった。上物率は「ひなた」で最も高く、「りんか 409」で最も低かった。10a 換算上物収量は「麗月」で最も高かった。

糖度は、品種間での差異は見られなかった。

(2) 次年度以降の計画
継続

表 1 生育調査 (10 株平均)

品 種 名		草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	第 1 果房 の節位	節間長 (cm)	葉 長 (cm)	茎 径 (mm)
みそら 64	定植時	25.9	7.6	6.4	－	24.7	7.8
	収穫開始時	138.1	26.1	－	5.3	48.8	12.7
ひなた	定植時	30.0	8.3	6.7	－	29.4	8.0
	収穫開始時	126.0	24.2	－	5.2	45.4	12.7
桃太郎ネクスト	定植時	34.7	7.9	5.8	－	28.3	7.8
	収穫開始時	179.1	26.8	－	6.7	50.2	12.7
りんか 409	定植時	31.1	8.2	6.9	－	25.9	7.3
	収穫開始時	136.2	23.9	－	5.7	41.0	11.6
麗月	定植時	32.7	6.8	6.0	－	26.3	7.8
	収穫開始時	199.5	27.3	－	7.3	46.7	13.9

表 2 収量調査 (10 株平均)

品 種 名	上 物		下 物		合 計	
	果 数	収 量 (g)	果 数	収 量 (g)	果 数	収 量 (g)
みそら 64	300	49,757	58	6,098	358	55,855
ひなた	296	53,810	36	3,566	332	57,376
桃太郎ネクスト	293	58,245	67	10,632	360	68,877
りんか 409	254	44,810	78	14,028	332	58,838
麗月	458	77,525	57	7,822	515	85,347

表 2 つづき

品 種 名	1 株 換 算 収 量 (g)	平均 1 果 重 (g)	上 物 率 (%)	1 棟 換 算 収 量 (t)	10a 換 算 収 量 (t)	10a 換 算 上 物 収 量 (t)
みそら 64	5,586	156.0	89.1	1.8	10.8	9.6
ひなた	5,738	172.8	93.8	1.8	11.1	10.4
桃太郎ネクスト	6,888	191.3	84.6	2.2	13.4	11.3
りんか 409	5,884	177.2	76.2	1.9	11.4	8.7
麗月	8,535	165.7	90.8	2.7	16.6	15.0

※上物：A+B品、下物：C+D+外品の合計。

※1株換算収量＝合計収量/10株。平均 1 果重＝合計収量/合計果数。上物率＝上物収量/合計収量×100。

1棟 (165㎡) 換算収量＝1株換算収量×定植株数 (320株)。10a換算収量＝1棟換算収量/165㎡×1,000㎡。

10a換算上物数量＝10a換算数量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表3 糖度調査 (Brix%)

品種名	6月28日	7月24日	8月28日	9月25日
みそら64	6.0	5.6	5.6	5.1
ひなた	6.1	5.6	5.3	5.6
桃太郎ネクスト	5.7	5.2	5.2	4.8
りんか409	5.5	6.7	5.6	5.4
麗月	5.7	5.6	5.2	5.4

※5果当たりの平均値。

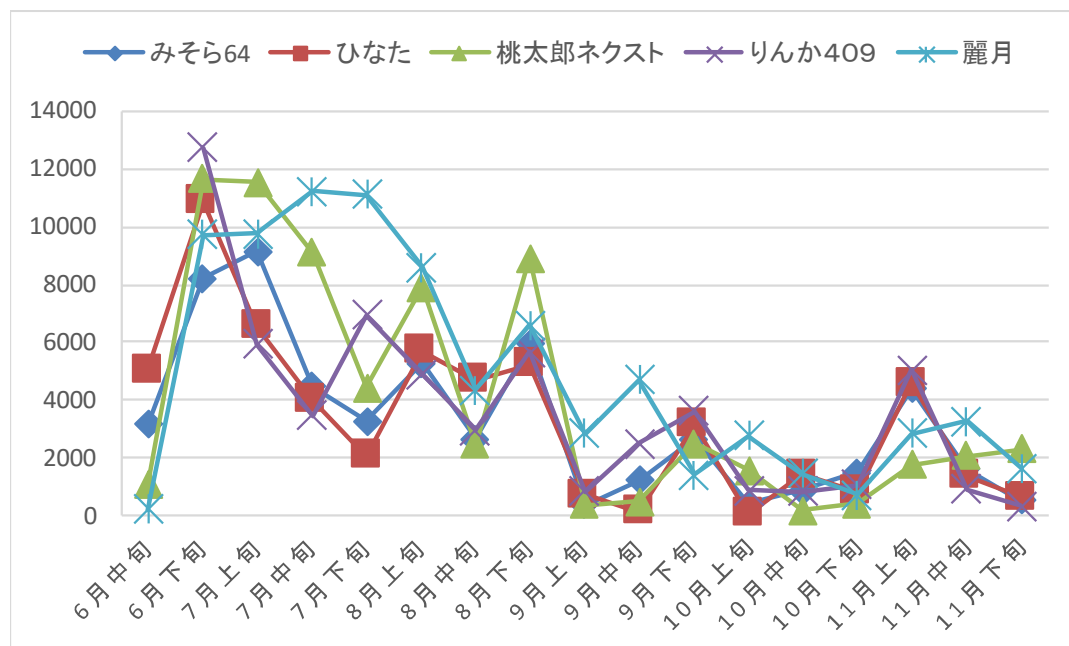


図1 旬別収量 (g) (10株当たり)

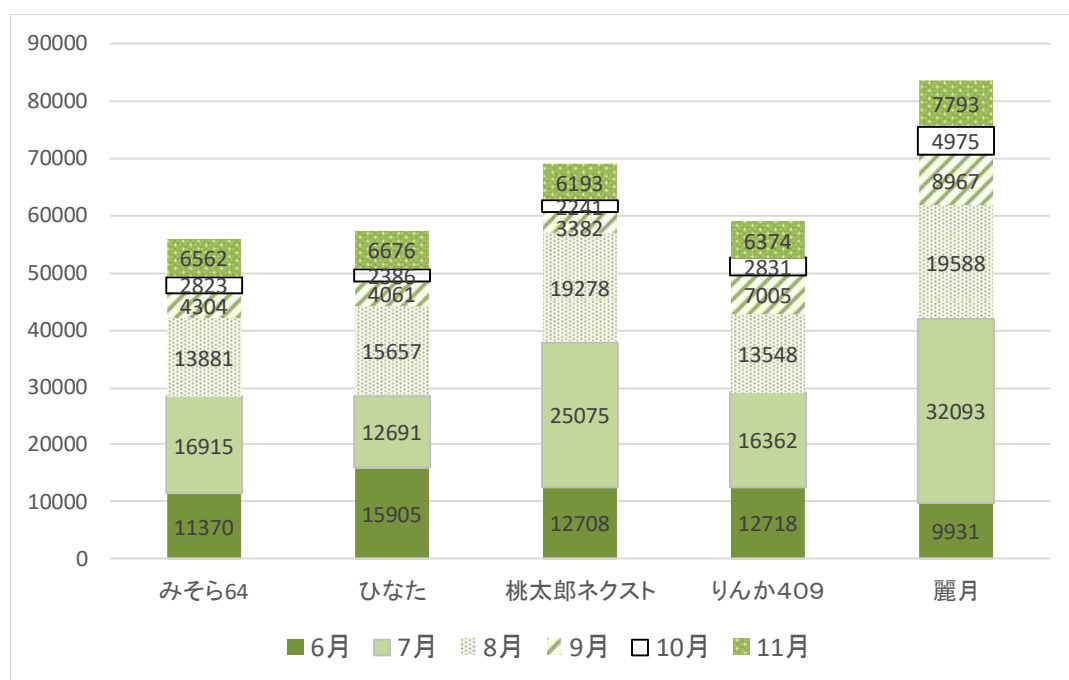


図2 月別収量 (g) (10株当たり)

表 4 年次別結果

品種名	項目	平均1果重 (g)		上物率 (%)		10a換算収量 (t)		10a換算上物収量 (t)	
		R4年度	R5年度	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度
みそら64		185.1	156.0	86.6	89.1	12.6	10.8	10.9	9.6
ひなた		193.1	172.8	90.3	93.8	12.8	11.1	11.5	10.4
桃太郎ネクスト		191.6	191.3	80.8	84.6	13.7	13.4	11.0	11.3
りんか409		181.9	177.2	74.9	76.2	11.4	11.4	8.5	8.7
麗月		169.3	165.7	88.9	90.8	12.6	16.6	11.2	15.0

施設野菜の部 No.5

項 目：品種比較調査

調査名：トマトの抑制栽培における品種比較調査（継続：令和4年度～令和6年度）

- 1 目的 トマトの抑制栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調 査 場 所 ガラス温室5号（165 m²：約50坪）
- (2) 耕 種 概 要
- 1) 栽 培 方 法 養液土耕栽培
- 2) は 種 月 日 令和5年6月5日（72穴トレイ）
- 3) 定 植 月 日 令和5年6月29日
（前作の栽培中にその株間に定植）
- 4) 育 苗 日 数 23日
- 5) 栽 植 距 離 ベッド幅100cm、株間40cm、2条植え
- 6) 定 植 株 数 320株/棟
- 7) 施 肥 量 N-P-K=0.24-0.33-0.40kg/a
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：1.5kg
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：0.4kg
- 8) 使 用 資 材 あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から
白黒ダブルマルチを展開（6月29日～10月2日）。
- 9) 収 穫 期 間 令和5年8月25日～11月29日
- 10) 保 温 内カーテン：令和5年10月2日～11月29日
- 11) 加 温 温風暖房機（8℃設定）：令和5年11月10日～11月29日
- 12) 薬 剤 散 布 28回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。
- 13) 摘 心 令和5年9月29日（8段程度）
- (3) 調査区の構成
- 1) 調 査 区 5区（1区10株、1区制）
- 2) 供 試 品 種
- | | |
|-------------|-----------|
| <1> みそら 64 | (みかど協和株) |
| <2> ひなた | (みかど協和株) |
| <3> 桃太郎ネクスト | (タキイ種苗株) |
| <4> りんか 409 | (株サカタのタネ) |
| <5> 麗月 | (株サカタのタネ) |
- (4) 調 査 項 目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育
全ての品種で定植時より徒長傾向で推移した。
病虫害では、10月以降、一部でタバコガ類による果実の食害が確認された。
- 2) 収量
7月下旬以降高温で推移したことで、花数が減少し、着花不良が全ての品種で確認され、10月の収量が減少した。
10a 換算収量は「ひなた」で最も多かった。また月別収量で最も多かったのは、8月、9月では「ひなた」、10月では「麗月」、11月は「みそら 64」であった。
- 3) 品質
「麗月」を除く全ての品種で裂果の発生が多くなった。また、全ての品種で1果100g以下の下物の発生が多く、小玉傾向となった。
平均1果重は「桃太郎ネクスト」、「みそら 64」で大きく、「麗月」、「りんか 409」で小さかった。上物率は「ひなた」、「麗月」で高く、「りんか 409」で低かった。10a 換算上物収量は「ひなた」で最も高かった。
糖度は、品種間での差異は見られなかった。

(2) 次年度以降の計画
継続

表 1 収量調査 (10 株当たり)

品 種 名	上 物		下 物		合 計	
	果数	収量 (g)	果数	収量 (g)	果数	収量 (g)
みそら64	105	18,110	46	5,839	151	23,949
ひなた	150	25,017	37	3,627	187	28,644
桃太郎ネクスト	112	18,545	45	6,474	157	25,019
りんか409	76	11,718	61	6,939	137	18,657
麗月	161	23,625	41	3,654	202	27,279

表 2 つづき

品 種 名	1株換算 収量 (g)	平均1果 重 (g)	上物率 (%)	1棟換算 収量 (t)	10a換算 収量 (t)	10a換算 上物収量 (t)
みそら64	2,395	158.6	75.6	0.8	4.6	3.5
ひなた	2,864	153.2	87.3	0.9	5.6	4.9
桃太郎ネクスト	2,502	159.4	74.1	0.8	4.9	3.6
りんか409	1,866	136.2	62.8	0.6	3.6	2.3
麗月	2,728	135.0	86.6	0.9	5.3	4.6

※上物：A+B品、下物：C+D+外品の合計。

※1株換算収量＝合計収量/10株。平均1果重＝合計収量/合計果数。上物率＝上物収量/合計収量×100。

1棟（165㎡）換算収量＝1株換算収量×定植株数（320株）。10a換算収量＝1棟換算収量/165㎡×1,000㎡。

10a換算上物数量＝10a換算数量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 2 糖度調査 (Brix %、5 果平均)

品 種 名	9月25日
みそら64	5.1
ひなた	5.1
桃太郎ネクスト	4.9
りんか409	4.9
麗月	5.1

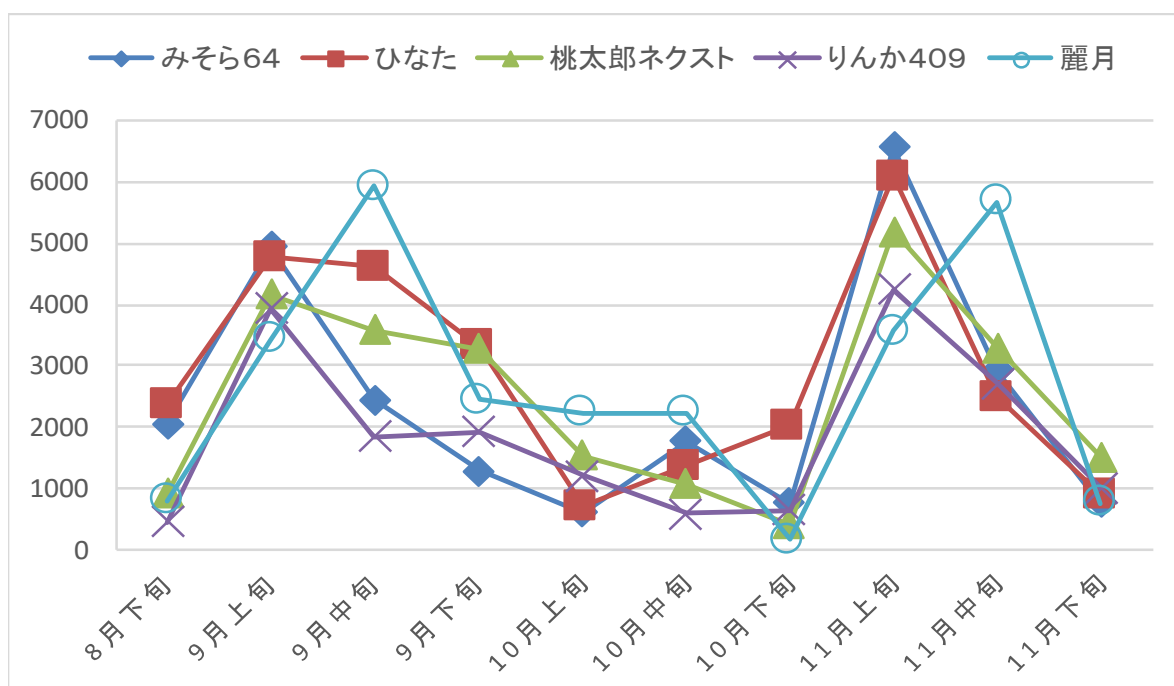


図1 旬別収量 (g) (10 株当たり)

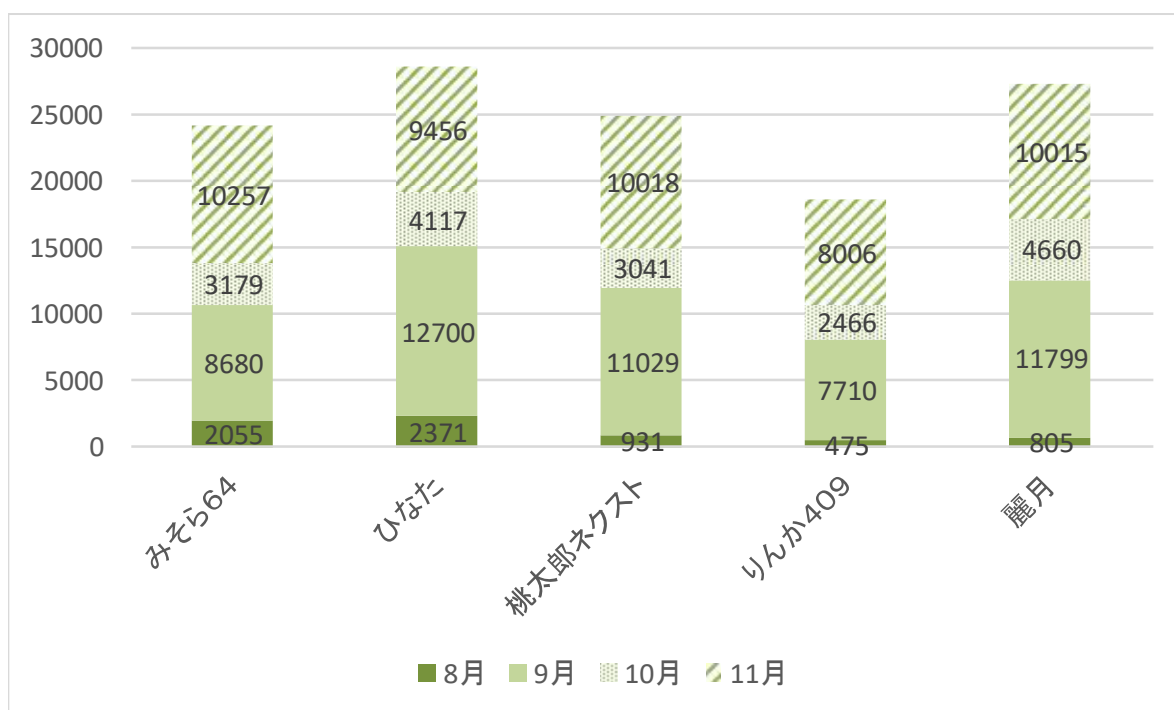


図2 月別収量 (g) (10 株当たり)

表3 年次別結果

品種名	平均1果重 (g)		上物率 (%)		10a換算収量 (t)		10a換算上物収量 (t)	
	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度
みそら64	145.5	158.6	78.8	75.6	2.9	4.6	2.3	3.5
ひなた	161.0	153.2	77.2	87.3	4.4	5.6	3.4	4.9
桃太郎ネクスト	110.4	159.4	73.7	74.1	1.1	4.9	0.8	3.6
りんか409	146.2	136.2	60.9	62.8	3.5	3.6	2.0	2.3
麗月	138.4	135.0	82.0	86.6	3.6	5.3	2.9	4.6

施設野菜の部 No.6

項 目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（継続：令和4年度～令和6年度）

- 1 目的 ミニトマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調 査 場 所 パイプハウス 2 号 (132 m²：約 40 坪)
- (2) 耕 種 概 要
- | | |
|-------------|---|
| 1) 栽 培 方 法 | 養液土耕栽培 |
| 2) は 種 月 日 | 令和 4 年 12 月 28 日 (144 穴トレイ) |
| 3) 移 植 月 日 | 令和 5 年 2 月 2 日 (12 cmポット) |
| 4) 定 植 月 日 | 令和 5 年 2 月 27 日 |
| 5) 栽 植 距 離 | ベッド幅 100 cm、株間 40 cm、2 条植え |
| 6) 育 苗 日 数 | 61 日 |
| 7) 定 植 株 数 | 228 株/棟 |
| 8) 施 肥 量 | N-P-K=1.29-1.21-2.25
【肥料】大塚養液土耕 5 号 (12-20-20、～収穫前)：3.6kg/a
大塚養液土耕 2 号 (14-8-25、収穫開始～)：6.1kg/a |
| 9) 使 用 資 材 | ハイフミンハイブリッド G (微生物資材)：30kg/a、
アヅミン (Mg:3%)：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒
ダブルマルチを展開 (6 月 29 日～7 月 31 日)。 |
| 10) 収 穫 期 間 | 令和 5 年 5 月 9 日～7 月 29 日 |
| 11) 保 温 | 内カーテン：令和 5 年 2 月 27 日～令和 5 年 6 月 4 日 |
| 12) 加 温 | 温風暖房機 (12℃設定)：令和 5 年 2 月 27 日～令和 5 年 5 月 12 日 |
| 13) 薬 剤 散 布 | 18 回 (成分回数)
※うね毎に 1 本、株上にラノーテープ剤を設置。 |
| 14) 摘 心 | 令和 5 年 5 月 31 日 (8 段程度) |
- (3) 調査区の構成
- | | |
|------------|---|
| 1) 調 査 区 | 5 区 (1 区 5 株、1 区制) |
| 2) 供 試 品 種 | <1> キャロル 10 (株)サカタのタネ
<2> キャロルスター (株)サカタのタネ
<3> キャロルムーン (株)サカタのタネ
<4> C7-276 (株)サカタのタネ
<5> サンチェリーピュア (トキタ種苗(株)) |
- (4) 調 査 項 目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育
- 定植時の生育調査では、草丈が「キャロル 10」で高くなり、「サンチェリーピュア」で最も低くなった。
- 収穫開始時の生育調査では、草丈が「キャロル 10」で最も高くなり、「サンチェリーピュア」で最も低くなった。また、最も節間が短かったのは「サンチェリーピュア」であった。
- 病害虫については確認されなかった。
- 2) 収量
- 10a 換算収量は「サンチェリーピュア」で最も多かった。また月別収量で最も多かったのは、5 月では「キャロル 10」、6 月では「サンチェリーピュア」、7 月では「キャロルムーン」であった。
- 3) 品質
- 「キャロル 10」は他品種に比べキズの発生は少ないものの、裂果及び下物となる小玉が多く発生した。

平均1果重は「キャロルムーン」で最も大きくなり、「キャロル10」で最も小さかった。上物率は「キャロル10」で最も高く、「キャロルスター」で最も低かった。10a換算上物収量は「サンチェリーピュア」、「キャロルムーン」で最も高かった。糖度は、「キャロルスター」で高かった。

(2) 次年度以降の計画
継続

表1 生育調査 (5株平均)

品種名		草丈 (cm)	葉数 (枚)	第1果房 の節位	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
キャロル10	定植時	49.2	10.0	8.8	－	24.4	5.5
	収穫開始時	204.4	28.4	－	7.2	32.6	10.6
キャロルスター	定植時	44.0	9.4	7.0	－	23.6	5.2
	収穫開始時	182.2	31.0	－	5.9	37.0	10.6
キャロルムーン	定植時	39.4	9.0	8.2	－	24.4	5.2
	収穫開始時	165.4	28.2	－	5.9	42.2	10.8
C7-276	定植時	37.0	9.0	8.4	－	23.0	5.4
	収穫開始時	155.2	26.0	－	6.0	32.0	10.9
サンチェリー ピュア	定植時	25.4	8.2	8.4	－	19.2	4.7
	収穫開始時	150.0	28.2	－	5.3	30.6	10.5

表2 収量調査 (5株当たり)

品種名	2L(21g以上)		L(15～21g未満)		M(11～15g未満)		S(7～11g未満)		2S(5～7g)	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
キャロル10	7	159	138	2,336	441	5,459	396	3,670	51	319
キャロルスター	27	592	383	6,603	243	3,183	88	836	15	98
キャロルムーン	135	3,058	413	7,177	159	2,139	43	400	5	30
C7-276	1	22	253	4,245	329	4,306	103	989	6	38
サンチェリーピュア	42	939	289	5,148	413	5,385	158	1,507	6	37

表2つづき

品種名	上物小計		下物		合計(上+下)		1株換算 収量 (g)	平均1 果重 (g)	上物率 (%)	LM率 (%)
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)				
キャロル10	1,033	11,943	61	493	1,094	12,436	2,487	11.4	96.0	65.3
キャロルスター	756	11,312	118	1,206	874	12,518	2,504	14.3	90.4	86.5
キャロルムーン	755	12,804	63	893	818	13,697	2,739	16.7	93.5	72.8
C7-276	692	9,600	34	486	726	10,086	2,017	13.9	95.2	89.1
サンチェリーピュア	908	13,016	48	656	956	13,672	2,734	14.3	95.2	80.9

表2つづき

品種名	1棟換算 収量 (kg)	10a換算 収量 (t)	10a換算 上物収量 (t)
キャロル10	567	4.3	4.1
キャロルスター	571	4.3	3.9
キャロルムーン	625	4.7	4.4
C7-276	460	3.5	3.3
サンチェリーピュア	623	4.7	4.5

※上物：A品、下物：B品＋外品。

※1株換算収量＝合計収量/5株。平均1果重＝合計収量/合計果数。

上物率＝上物収量/合計収量。LM率＝(L品収量＋M品収量)/合計収量。

1棟換算収量＝1株換算収量×228株(定植株数)。10a換算収量＝1棟換算収量/132㎡×1,000㎡

10a換算上物数量＝10a換算数量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表3 糖度調査 (Brix%、5果平均)

品種名	6月9日	7月24日
キャロル10	8.0	7.9
キャロルスター	8.3	8.6
キャロルムーン	7.7	7.4
C7-276	7.9	7.9
サンチェリーピュア	7.6	6.8

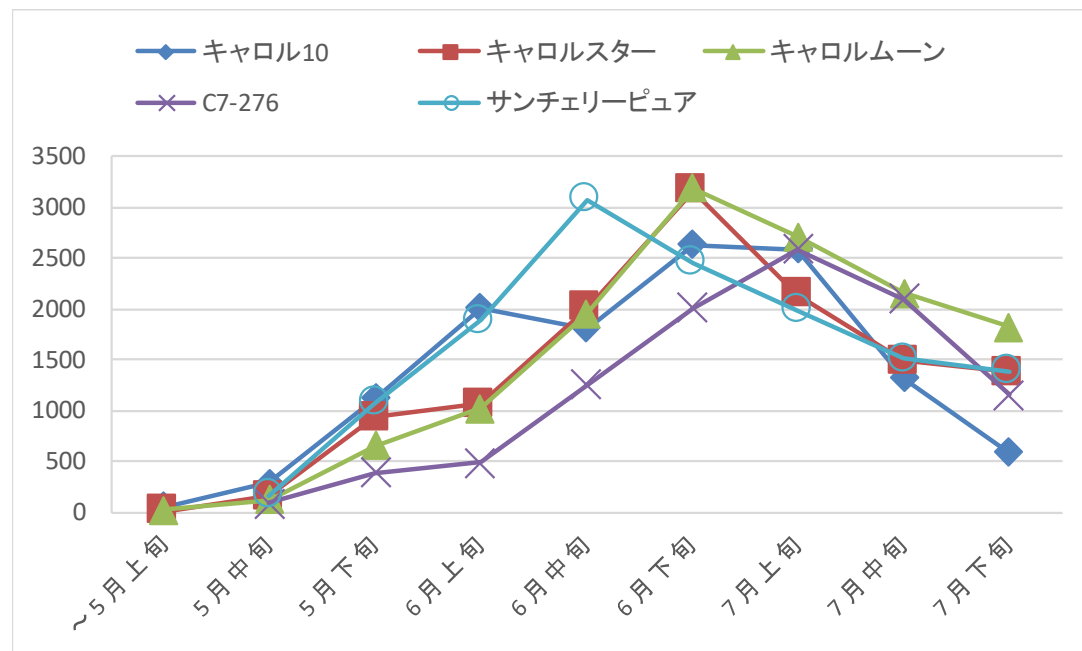


図1 旬別収量 (g) (5果当たり)

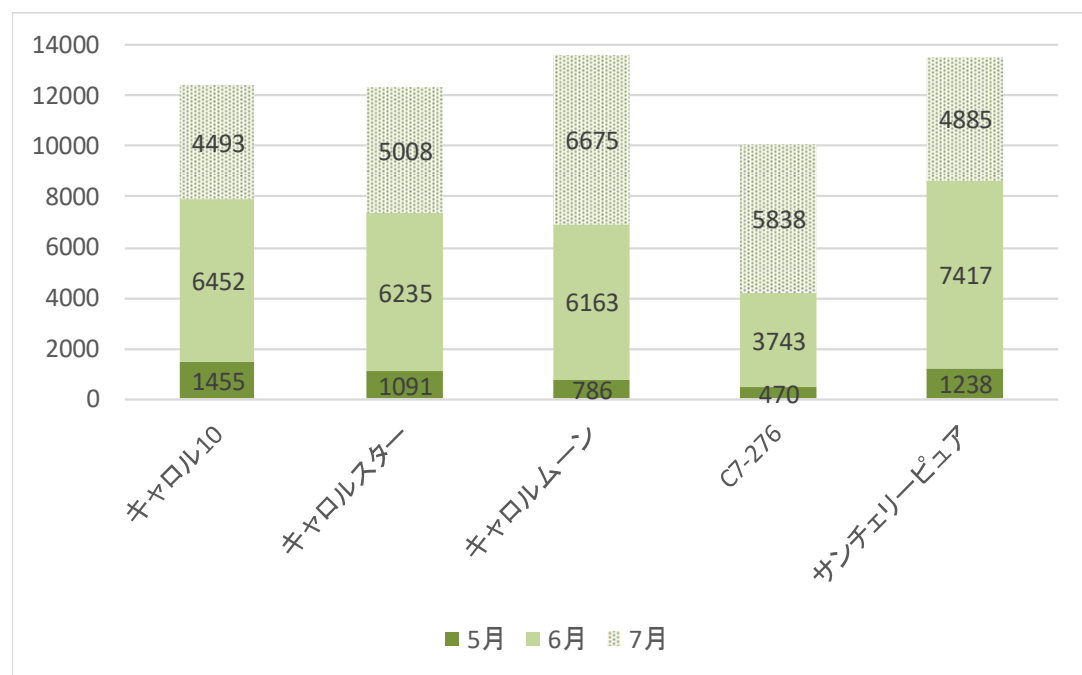


図2 月別収量 (g) (5株当たり)

表 4 年次別結果

品種名	項目	上物率 (%)		LM率 (%)		10a換算収量 (t)		10a換算上物収量 (t)	
		R4年度	R5年度	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度
キャロル10		96.0	96.0	41.9	65.3	5.3	4.3	5.1	4.1
キャロルスター		93.4	90.4	76.6	86.5	5.3	4.3	5.0	3.9
キャロルムーン		91.7	93.5	56.8	72.8	5.7	4.7	5.3	4.4
C7-276		96.7	95.2	82.9	89.1	4.6	3.5	4.5	3.3
サンチェリーピュア		92.6	95.2	81.0	80.9	6.3	4.7	5.8	4.5

施設野菜の部 No.7

項 目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続：令和4年度～令和6年度）

- 1 目的 ミニトマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調 査 場 所 パイプハウス1号（132 m²：約40坪）
- (2) 耕 種 概 要
- | | |
|----------|---|
| 1) 栽培方法 | 養液土耕栽培 |
| 2) は種月日 | 令和5年2月28日（144穴トレイ） |
| 3) 移植月日 | 令和5年3月20日（12cmポット） |
| 4) 定植月日 | 令和5年4月13日 |
| 5) 栽植距離 | ベッド幅100cm、株間40cm、2条植え |
| 6) 育苗日数 | 44日 |
| 7) 定植株数 | 228株/棟 |
| 8) 施肥量 | N-P-K=2.36-1.56-4.20
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：1.6kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：15.5kg/a |
| 9) 使用資材 | ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（6月29日～10月2日）。 |
| 10) 収穫期間 | 令和5年6月5日～11月20日 |
| 11) 保温 | 内カーテン：令和5年4月13日～令和5年6月4日、10月2日～11月20日 |
| 12) 加温 | 温風暖房機（12℃設定）：令和5年4月13日～令和5年5月12日 |
| 13) 薬剤散布 | 44回（成分回数） |
| 14) 摘心 | 令和5年9月29日（20段程度） |
- (3) 調査区の構成
- | | |
|---------|--|
| 1) 調査区 | 8区（1区5株、1区制） |
| 2) 供試品種 | <1> キャロル10 (株)サカタのタネ
<2> キャロルスター (株)サカタのタネ
<3> キャロルムーン (株)サカタのタネ
<4> C7-276 (株)サカタのタネ
<5> サンチェリーピュア (トキタ種苗株)
<6> サマー千果 (タキイ種苗株)
<7> アイラ (株)武蔵野種苗園
<8> T833 (みかど協和株) |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育
- 7月下旬以降高温で推移したことで、15段目から17段目の花数が減少し、着花不良が全ての品種で確認された。
- 定植時の生育調査では、草丈が「キャロル10」で最も高くなり、「キャロルスター」で最も低くなった。
- 収穫開始時の生育調査では、草丈が「キャロル10」で最も高くなり、「T833」で最も低くなった。また、最も節間が短かったのは「アイラ」、「T833」であった。
- 病害虫については、確認されなかった。
- 2) 収量
- 10a換算収量は「アイラ」で最も多かったが、10a換算上物収量では最も低くなった。また「アイラ」、「サンチェリーピュア」は収穫初期の収量が他品種より多く、「T833」は収穫後半の収量が他品種より多かった。

なお月別収量で最も多かったのは、6月では「アイラ」、7月では「サンチェリーピュア」8月では「アイラ」、9月、10月では「T833」、11月では「サマー千果」であった。

3) 品質

多くの品種でグリーンバック果が7月下旬から確認され、「アイラ」では収穫果数の3割で発生した。それに対し「キャロルスター」、「キャロルムーン」ではグリーンバック果の発生は確認されなかった。

また、「キャロル10」、「アイラ」、「T833」では裂果が多く発生した。

平均1果重は「キャロルムーン」で最も大きく、「キャロル10」で最も小さかった。上物率は「キャロルスター」「C7-276」で最も高く、「アイラ」で最も低かった。10a換算上物収量は「T833」で最も高かった。

糖度は、品種間での差異は見られなかった。

(2) 次年度以降の計画 継続

表1 生育調査 (5株平均)

品種名		草丈 (cm)	葉数 (枚)	第1果房 の節位	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
キャロル10	定植時	44.8	8.6	6.8	－	26.8	6.7
	収穫開始時	208.6	26.0	－	8.0	33.8	11.6
キャロルスター	定植時	34.8	8.0	6.2	－	26.2	6.5
	収穫開始時	193.8	29.0	－	6.7	35.8	11.5
キャロルムーン	定植時	37.6	8.0	6.2	－	25.4	7.8
	収穫開始時	175.0	27.4	－	6.4	43.0	13.9
C7-276	定植時	37.8	7.6	6.4	－	25.0	7.4
	収穫開始時	190.8	26.8	－	7.1	38.4	13.0
サンチェリーピュア	定植時	37.2	8.8	7.6	－	24.0	6.4
	収穫開始時	192.2	29.6	－	6.5	32.8	12.8
サマー千果	定植時	40.6	7.2	6.0	－	26.0	6.9
	収穫開始時	195.0	27.4	－	7.1	38.8	12.8
アイラ	定植時	38.6	9.0	7.6	－	26.4	7.6
	収穫開始時	177.0	28.0	－	6.3	35.8	12.0
T833	定植時	36.2	7.6	6.2	－	26.4	6.8
	収穫開始時	167.4	26.6	－	6.3	45.0	13.1

表2 収量調査 (5株当たり)

品種名	2L(21g以上)		L(15～21g未満)		M(11～15g未満)		S(7～11g未満)		2S(5～7g)	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
キャロル10	4	93	185	3,029	715	9,007	435	4,208	25	162
キャロルスター	28	608	368	6,254	646	8,348	275	2,643	24	145
キャロルムーン	70	1,551	510	8,818	380	6,982	159	1,523	11	67
C7-276	7	158	351	5,921	547	6,969	553	5,205	67	437
サンチェリーピュア	103	2,332	542	9,330	656	8,650	123	1,181	14	83
サマー千果	148	3,366	655	11,390	391	5,162	109	1,069	11	69
アイラ	67	1,506	417	7,394	412	5,472	105	979	18	108
T833	6	134	305	5,070	1,104	14,297	371	3,550	20	124

表2つづき

品種名	上物小計		下物		合計(上+下)		1株換算 収量 (g)	平均1 果重 (g)	上物率 (%)	LM率 (%)
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)				
キャロル10	1,364	16,499	125	1,387	1,489	17,886	3,577	12.0	92.2	72.9
キャロルスター	1,341	17,998	39	549	1,380	18,547	3,709	13.4	97.0	81.1
キャロルムーン	1,130	18,941	74	1,136	1,204	20,077	4,015	16.7	94.3	83.4
C7-276	1,525	18,690	48	559	1,573	19,249	3,850	12.2	97.1	69.0
サンチェリーピュア	1,438	21,576	64	1,014	1,502	22,590	4,518	15.0	95.5	83.3
サマー千果	1,314	21,056	87	1,385	1,401	22,441	4,488	16.0	93.8	78.6
アイラ	1,019	15,459	732	10,861	1,751	26,320	5,264	15.0	58.7	83.2
T833	1,806	23,175	124	1,627	1,930	24,802	4,960	12.9	93.4	83.6

表2つづき

品種名	1棟換算 収量 (kg)	10a換算 収量 (t)	10a換算 上物収量 (t)
キャロル10	816	6.2	5.7
キャロルスター	846	6.4	6.2
キャロルムーン	916	6.9	6.5
C7-276	878	6.6	6.5
サンチェリーピュア	1,030	7.8	7.5
サマー千果	1,023	7.8	7.3
アイラ	1,200	9.1	5.3
T833	1,131	8.6	8.0

※上物：A品、下物：B品＋外品。

※1株換算収量＝合計収量/5株。平均1果重＝合計収量/合計果数。

上物率＝上物収量/合計収量。LM率＝(L品収量＋M品収量)/合計収量。

1棟換算収量＝1株換算収量×228株(定植株数)。10a換算収量＝1棟換算収量/132㎡×1,000㎡

10a換算上物数量＝10a換算数量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表3 糖度調査 (Brix%、5果平均)

品種名	6月28日	7月24日	8月28日	9月25日
キャロル10	8.4	8.2	7.3	6.7
キャロルスター	7.9	8.2	8.4	8.0
キャロルムーン	7.3	7.4	7.3	7.5
C7-276	7.8	7.8	7.0	8.1
サンチェリーピュア	6.6	7.4	7.1	6.4
サマー千果	7.6	7.6	7.2	8.1
アイラ	8.1	7.8	7.6	7.0
T833	7.8	7.5	7.8	7.2

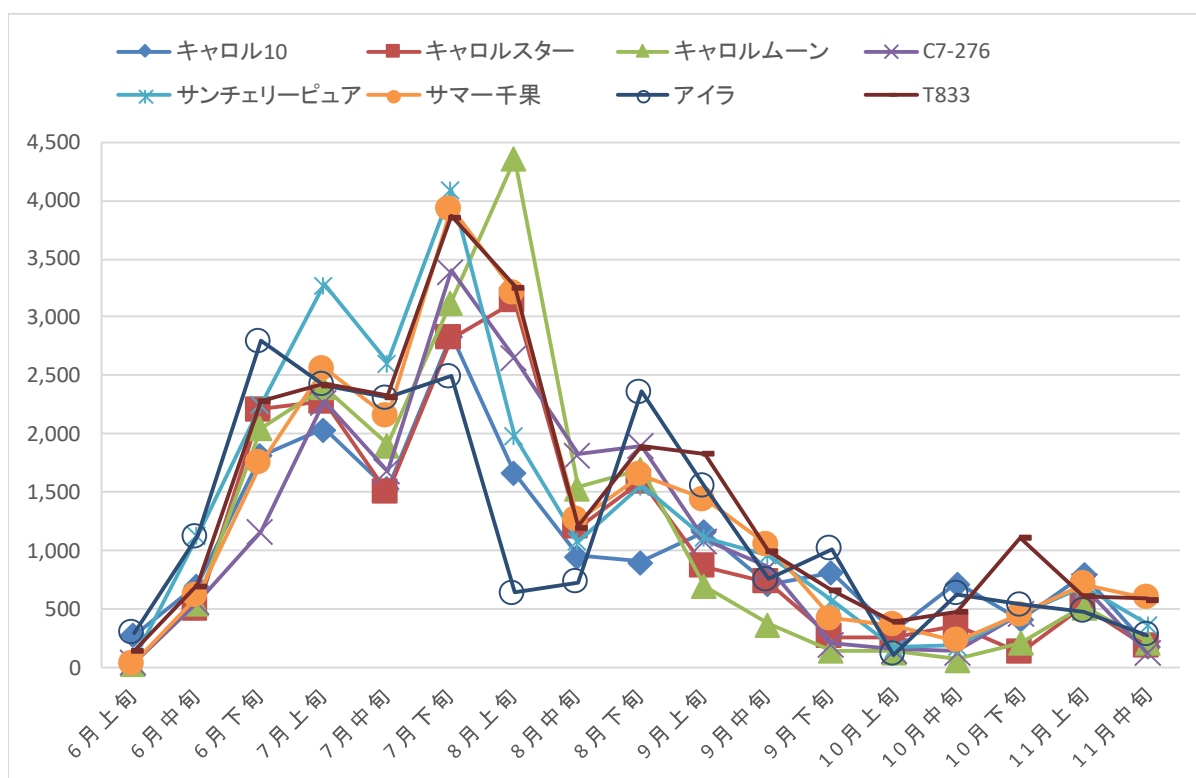


図1 旬別収量 (g) (5株当たり)

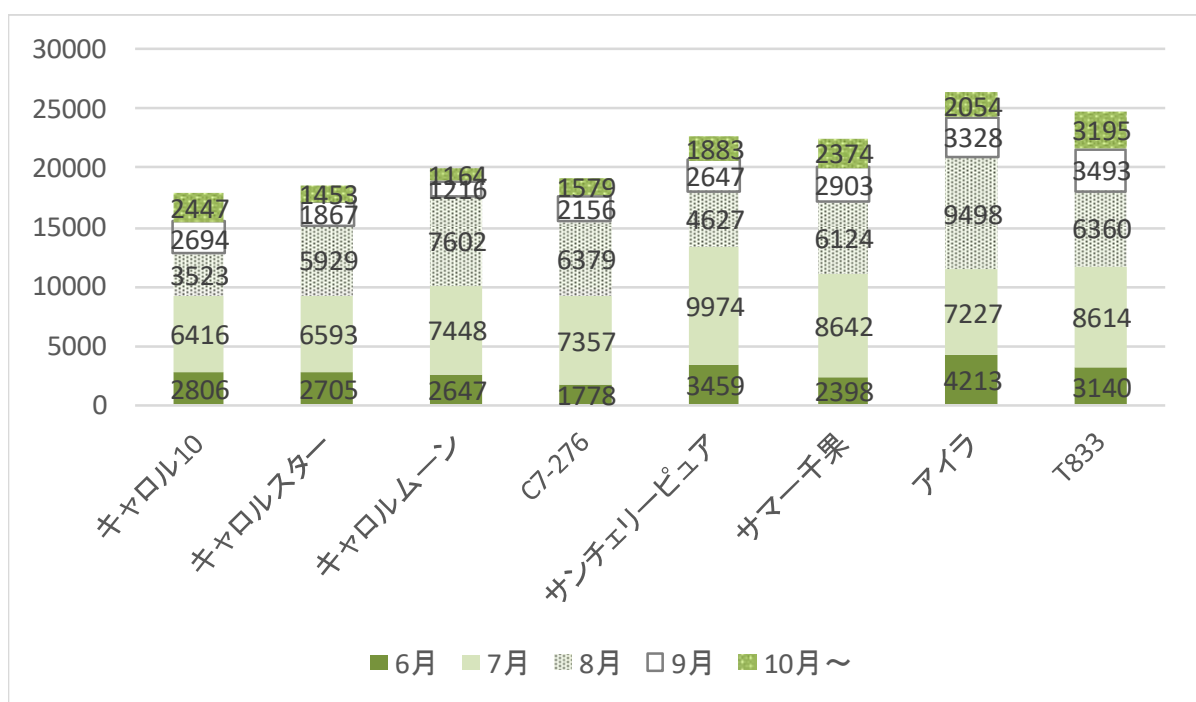


図2 月別収量 (g) (5株当たり)

表 4 年次別結果

品 種 名	項 目	上 物 率 (%)		LM 率 (%)		10a換算収 量 (t)		10a換算上物収量 (t)	
		R4年度	R5年度	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度
キャロル10		96.1	92.2	53.8	72.9	6.3	6.2	6.0	5.7
キャロルスター		96.6	97.0	83.6	81.1	5.5	6.4	5.3	6.2
キャロルムーン		92.4	94.3	63.8	83.4	5.8	6.9	5.4	6.5
C7-276		96.6	97.1	67.1	69.0	5.3	6.6	5.1	6.5
サンチェリーピュア		94.8	95.5	72.8	83.3	7.3	7.8	7.0	7.5
サマー千果		93.5	93.8	77.3	78.6	6.8	7.8	6.3	7.3
アイラ		92.5	58.7	67.6	83.2	5.2	9.1	4.8	5.3
T833		94.1	93.4	67.2	83.6	6.4	8.6	6.0	8.0

施設野菜の部 No.8

項 目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査（継続：令和4年度～令和6年度）

1 目的 ミニトマトの抑制栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調 査 場 所 パイプハウス 2 号 (132 m²：約 40 坪)
- (2) 耕 種 概 要
- 1) 栽 培 方 法 養液土耕栽培
 - 2) は 種 月 日 令和 5 年 6 月 5 日 (72 穴トレイ)
 - 3) 定 植 月 日 令和 5 年 6 月 29 日
(前作の栽培中にその株間に定植)
 - 4) 育 苗 日 数 23 日
 - 5) 栽 植 距 離 ベッド幅 100 cm、株間 40 cm、2 条植え
 - 6) 定 植 株 数 228 株/棟
 - 7) 施 肥 量 N-P-K=0.30-0.38-0.52kg/a
【肥料】大塚養液土耕 5 号 (12-20-20、～収穫前)：1.6kg/a
大塚養液土耕 2 号 (14-8-25、～収穫開始)：0.8kg/a
 - 8) 使 用 資 材 あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から
白黒ダブルマルチを展開 (6 月 29 日～10 月 2 日)。
 - 9) 収 穫 期 間 令和 5 年 8 月 25 日～11 月 29 日
 - 10) 保 温 内カーテン：令和 5 年 10 月 2 日～11 月 29 日
 - 11) 加 温 温風暖房機 (8℃設定)：令和 5 年 11 月 10 日～11 月 29 日
 - 12) 薬 剤 散 布 28 回 (成分回数)
※うね毎に 1 本、株上にラノーテープ剤を設置。
 - 13) 摘 心 令和 5 年 9 月 29 日 (8 段程度)
- (3) 調査区の構成
- 1) 調 査 区 6 区 (1 区 5 株、1 区制)
 - 2) 供 試 品 種
 - <1> キャロル 10 (株)サカタのタネ)
 - <2> キャロルスター (株)サカタのタネ)
 - <3> キャロルムーン (株)サカタのタネ)
 - <4> C7-276 (株)サカタのタネ)
 - <5> サンチェリーピュア (トキタ種苗(株))
 - <6> T833 (みかど協和(株))
- (4) 調 査 項 目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育
全ての品種で定植時より徒長傾向で推移した。
また、7 月下旬以降高温で推移したことで、4 段目から 6 段目の花数が減少し、着花不良が全ての品種で確認された。
病害虫については確認されなかった。
 - 2) 収量
10a 換算収量は「キャロルムーン」で最も多かった。また月別収量で最も多かったのは、9 月、11 月では「キャロルムーン」、10 月では「T833」が高かった。
 - 3) 品質
「キャロル 10」で 2S 未満の下物の発生が他品種に比べ多くなった。
平均 1 果重は「キャロルムーン」で最も大きく、「キャロル 10」で最も小さかった。
上物率は全ての品種で高い傾向にあり、品種間での差異は見られなかった。
10a 換算上物収量は「キャロルムーン」で最も高かった。
糖度は「C7-276」、「T833」で高く、「サンチェリーピュア」で低い結果となった。

(2) 次年度以降の計画
継続

表1 収量調査（5株当たり）

品種名	2L(21g以上)		L(15～21g未満)		M(11～15g未満)		S(7～11g未満)		2S(5～7g)	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
キャロル10	0	0	1	15	52	589	294	2,590	133	821
キャロルスター	0	0	41	668	189	2,440	164	1,543	14	88
キャロルムーン	0	0	118	1,948	299	3,888	121	1,135	3	20
C7-276	0	0	2	33	129	1,514	338	3,178	28	179
サンチェリーピュア	0	0	7	108	100	1,201	306	2,847	40	268
T833	0	0	31	495	247	3,103	309	2,874	42	263

表2つづき

品種名	上物小計		下物		合計(上+下)		1株換算 収量 (g)	平均1 果重 (g)	上物率 (%)	LM率 (%)
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)				
キャロル10	480	4,015	24	112	504	4,127	825	8.2	97.3	15.0
キャロルスター	408	4,739	4	52	412	4,791	958	11.6	98.9	65.6
キャロルムーン	541	6,991	3	36	544	7,027	1,405	12.9	99.5	83.5
C7-276	497	4,904	15	92	512	4,996	999	9.8	98.2	31.5
サンチェリーピュア	453	4,424	10	59	463	4,483	897	9.7	98.7	29.6
T833	629	6,735	10	59	639	6,794	1,359	10.6	99.1	53.4

表2つづき

品種名	1棟換算 収量 (kg)	10a換算 収量 (t)	10a換算 上物収量 (t)
キャロル10	188	1.4	1.4
キャロルスター	218	1.7	1.6
キャロルムーン	320	2.4	2.4
C7-276	228	1.7	1.7
サンチェリーピュア	204	1.5	1.5
T833	310	2.3	2.3

※上物：A品、下物：B品＋外品。

※1株換算収量＝合計収量/5株。平均1果重＝合計収量/合計果数。

上物率＝上物収量/合計収量。LM率＝（L品収量＋M品収量）/合計収量。

1棟換算収量＝1株換算収量×228株（定植株数）。10a換算収量＝1棟換算収量/132㎡×1,000㎡

10a換算上物数量＝10a換算数量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表2 糖度調査（Brix %、5果平均）

品種名	9月25日
キャロル10	6.7
キャロルスター	7.0
キャロルムーン	6.7
C7-276	7.4
サンチェリーピュア	6.6
T833	7.4

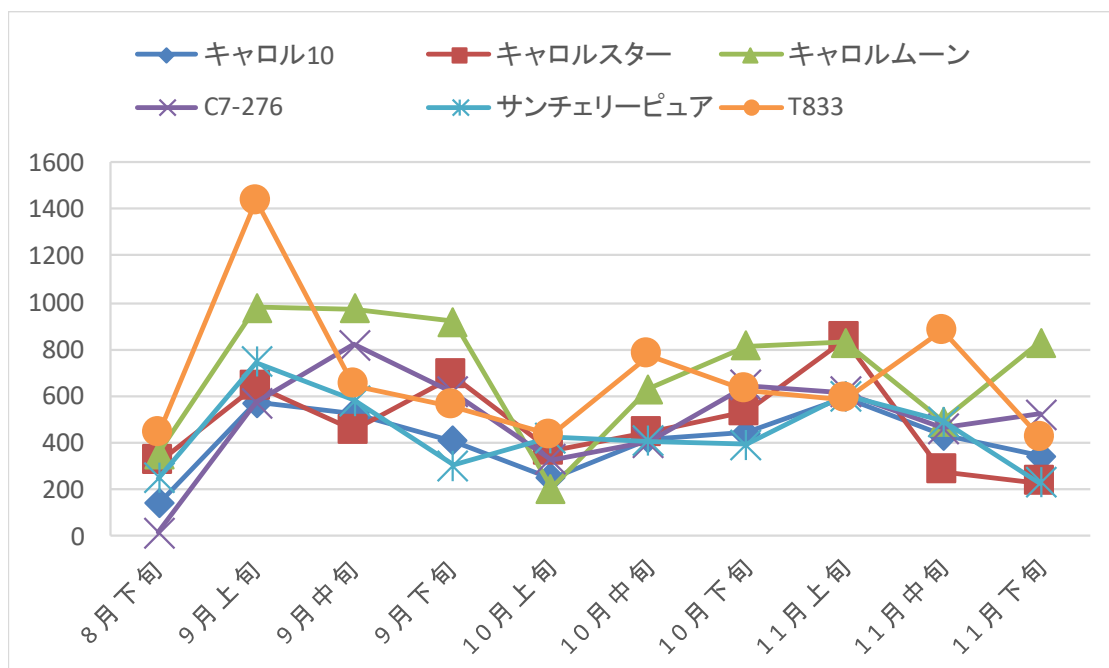


図1 旬別収量 (g) (5株当たり)

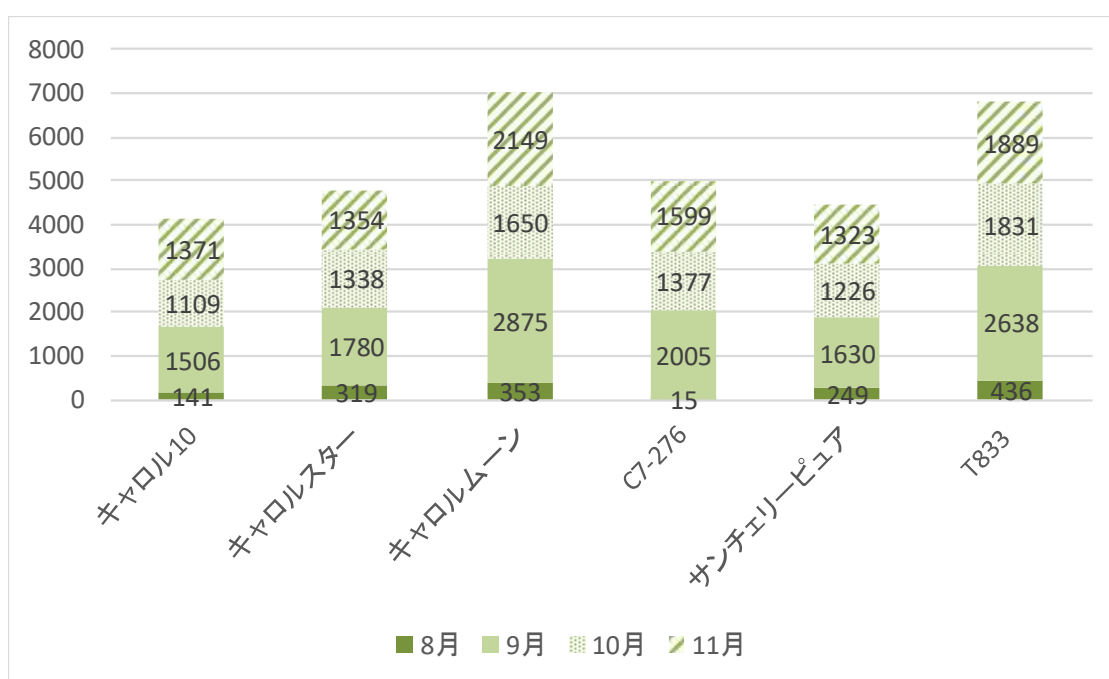


図2 月別収量 (g) (5株当たり)

表3 年次別結果

品種名	項目	上物率 (%)		LM率 (%)		10a換算収量 (t)		10a換算上物収量 (t)	
		R4年度	R5年度	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度
キャロル10		92.4	97.3	15.7	15.0	1.1	1.4	1.0	1.4
キャロルスター		85.3	98.9	24.6	65.6	0.7	1.7	0.6	1.6
キャロルムーン		98.2	99.5	82.7	83.5	2.4	2.4	2.4	2.4
C7-276		98.3	98.2	70.8	31.5	2.4	1.7	2.4	1.7
サンチェリーピュア		98.1	98.7	77.7	29.6	2.5	1.5	2.5	1.5
T833		94.6	99.1	64.6	53.4	0.9	2.3	0.9	2.3